

「患者さんに安心や生きる希望を届けられる病院薬剤師になりたい」

入門先：厚生連高岡病院 薬剤部

日時：2024年8月19日（月）

講師：厚生連高岡病院 薬剤部長 船本 哲生さん

薬剤部病棟薬剤業務担当主任 辻 未希子さん

1 病院薬剤師業務について知ろう！

◇薬剤師って、どんな仕事をしているの？

- ・調剤…医師から発行された処方せんにもとづいて、薬をつくる（準備する）仕事
- ・服薬指導…患者さんに薬をお渡しして、薬や副作用についての説明をする仕事
- ・多職種チーム医療…医師や看護師、薬剤師など、医療に関わる専門職種がひとつのチームとして患者さんに働きかけること
- ・その他…注射調剤、外来指導業務など



（感想）

多職種チーム医療は、病院薬剤師だからこそ経験できる仕事なのだとことを知りました。医療の専門家の一員として患者さんをサポートできることは、仕事のやりがいにつながるし、患者さんも安心できるのではないかと思います。



薬剤師業務とは？

◇薬剤師って、どんな場所で働いているの？

- ・病院
- ・調剤薬局
- ・ドラッグストア
- ・厚生センター（保健所）
- ・大学
- ・製薬会社、研究所など…

（感想）

薬剤師が働く場所はたくさんあることを知り、いろんな形で誰かの役に立つことができる仕事なのだと思います。病院の薬剤師は不足しているそうなので、いつか力になれるようにがんばりたいです。

◇同じ「病院」でも役割はいろいろ！

- ・急性期…病気やけがなどを発症した直後で、症状が不安定な患者さんに対して、24時間体制で治療を提供する病院
- ・回復期…急性期を乗り越え、症状が安定した患者さんに対して、在宅復帰などを目指したサポートを提供する病院
- ・療養期…病気の再発予防や体力の維持を目指す患者さんに対して、長期にわたる支援を提供する病院

(感想)

厚生連高岡病院は、富山県西部ではいちばん医療設備が整っており、「高度急性期病院」に分類されているそうです。2000種類もの薬をそろえ、どんな患者さんが運ばれてきても24時間体制で受け入れられていることをお聞きし、緊張感の中で仕事をしなければならない大変さを知りました。

2 調剤を体験してみよう！

◇まずは手洗いと消毒で、手の清潔を徹底する
紫色の泡ハンドソープで、手のひら、手の甲、指の間、つめの先、親指、手首を念入りによく洗いました。きれいに洗えていたら、泡が白色に変化するようになっていて、ぼくは白くなるまでに30秒ほどかかりました。ペーパータオルで手が完全にかわくまでよくふいたら、消毒液をすりこみます。消毒液もただ手のひらでこすり合わせるのではなく、手洗いの工程と同じように、ていねいにしました。



(感想)

手の清潔は、患者さんの大切な薬を準備するうえで、とても重要だということが分かりました。薬剤師さん一人一人が、いつでも消毒できるように腰に消毒液をぶら下げておられることに驚きました。手洗いは時間をかけて行わないと、あまり意味がないことも知り、日常生活でも気をつけていきたいと思いました。

◇ぼくが調剤した処方せん

- ・白色ワセリン（頻回に）…10g
- ・カロナールシロップ2%（38度以上の時）…15mL 3回分
- ・カルボシステインDS50%「タカタ」
(1日3回：朝昼夕食後) …1.8g 2日分

→調剤する時は、処方せんを見ながら電子カルテで薬の種類や量に間違いがないかを必ずチェックします。

① 白色ワセリン（軟膏）

薬の瓶に入っている白色ワセリンをヘラで取り、軟膏の容器（今回は10g用）に詰めかえます。お手本を見ている時は、ぼくにもできそうな気がしましたが、実際にやってみると軟膏の表面がガタガタになったり、はみ出したりして難しかったです。



② カロナールシロップ2%（水剤）

薬の瓶に入っているシロップをメスシリンダーのような器具に入れて量をはかります。それをシロップの容器に移しかえます。器具が細かったので、シロップを入れる時はこぼさないように気をつけました。緊張で手がふるえて、少し入れ過ぎてしまいました。

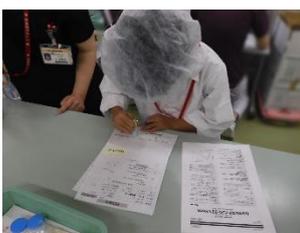


③ カルボシステインDS50%「タカタ」（散剤）

薬包紙を置いたばかりを0gに合わせ、薬の瓶に入っている散剤を薬包紙の上のせませす。次に、決められた分量にするためにスプーンのような器具で微調整します。その後、薬がのった薬包紙を機械へ運び、薬だけを投入します。すると機械がぐるぐる回って、薬が細い道に流れていき、機械が適切な量に分配して6袋（1日3回2日分）に袋詰めされます。最後に、ごみが入っていないかを目視でチェックします。（停電で機械が使えない場合は、薬を入れた薬包紙を手作業で巻いて、患者さんにお渡しします。）



- ① ～③の調剤が終わったら、全ての薬を一つの袋にまとめて入れます。袋と処方せんに薬剤師のハンコを押したら完成です。（水薬や粉薬は見た目がどれもほとんど同じなので、薬の名前が書いてあるシールを貼りつけるなどして、確認しやすいように工夫しています。）



(感想)

3種類の調剤をするだけで、たくさんのことを考えないといけないし、細かい作業が多くて大変でした。薬の種類が増えたらもっと大変です。薬剤師さんのすごさを改めて実感しました。散剤の調剤はおもしろかったし、ごみの確認までしておられるところに感動しました。薬の間違いを防ぐ工夫もされていて、すごいと思いました。



調剤した薬の完成品と処方せん

3 患者指導を見学しよう！

◇白血病患者さんとのコミュニケーションを通して学んだこと

がん患者さんというと、痛みや抗がん剤の副作用で苦しまれ、心も体も弱っておられる姿をぼくは想像していました。そんな患者さんを目の前にした時、ぼくは何と声をかけたらいいのか、話しかける内容全てが失礼になってしまうのではないかと思います、本当に不安でした。

ぼくの担当をしてくださった薬剤師さんの行動を見ていたら、患者さんと話す時は姿勢を低くして、視線を合わせるようにしておられました。そして、優しい口調で体調の確認をされていました。そうすることで、患者さんが安心して、不安や悩みを話しやすくなるような雰囲気をつくるのがとても大事なのだそうです。



患者指導見学後の考察

患者さんは、想像していたよりもお元気で、ぼくにいろいろなお話をしてくださいました。もうすぐ退院されることが決まっているそうです。家に帰られた後、楽しみにしていることがたくさんあるようで、聞いていてうれしい気持ちになりました。

でも、病気が見つかった時はショックを受けられたに違いないし、治療も大変だったと思います。薬剤師は、大きな病気をしておられる患者さんが、いろいろな感情になりながらもがんばって治療しておられることをしっかりと心に留めて仕事に取り組むことが大事なのだと思いました。

4 注射薬の投与方法を考えてみよう！

→注射薬は、主に注射器と点滴で投与しています。

◇どうやって注射器に薬を入れているの？

→3つの方法があります。

- ・はじめから薬が注射器に入っているもの
- ・すでにできている薬を自分で注射器に入れるもの
- ・注射器専用の薬（粉）を水で溶かして自分で注射器に入れるもの

◇点滴の配合変化

複数の薬を点滴で同時に体内に入れる時、混ぜていい薬と、そうでない薬があります。異なる種類の薬を混ぜた時に、薬の見た目が変化しないものは注射しても問題ありません。

でも、白っぽく濁った場合は注射してはいけません。理由は、体内に入ると毛細血管が詰まってしまうからです。

→例えば…

- ・ソルアセットFとラシックスは○
- ・ソルアセットFとニカルジピンは×

（感想）

集中治療室で治療中の患者さんの中に、同時に10種類以上もの薬を点滴投与されていた方がおられたそうです。薬剤師は、全ての薬の相性を把握していることを知り、知識が豊富でないとできない仕事だと思いました。

◇点滴の開通

一つの袋がいくつかの部屋に分けられていて、それぞれの部屋に異なった種類の栄養分などが入っている点滴があります。分かれている理由は、最初から全てを混ぜて放置しておく、変色してしまうからです。そのような点滴を取りあつかう場合は、投与する直前に袋を手で押して、開通させる必要があります。



(感想)

一つの点滴の袋の中で栄養分が分かれて入っているなんて、初めて知りました。医療技術の高さに驚きました。

5 まとめ

今まで、病院薬剤師になりたいという夢は持っていましたが、実際にどんなことをするのかを深く知る機会はありませんでした。そんなぼくにとって、このような経験はとても貴重でかけがえのないものになりました。

厚生連高岡病院は、高度急性期病院で24時間体制のうえに、いつ、どんな患者さんが運ばれてくるか分からないという、緊張感にあふれた職場だと思います。でもその分、きっとやりがいも大きいはずです。

ぼくの夢は、今回の経験で今まで以上に確かなものとなりました。夢がかなったら天国の祖父に報告できるように、富山県で働いて少しでも薬剤師不足を解消できるように、これから努力していきたいです。

今回お世話になった船本さん、辻さん、八幡さん。そして薬剤部のみなさま、緊張しているぼくを温かく迎えてくださり、うれしかったです。本当にありがとうございました。



船本さん、辻さんへの質問コーナー

